



つなぐちゃん

社協の各事業には、
社協会費が使われています

川島地区 社協だより

川島地区社会福祉協議会 地区社協だより編集委員
第24号 発行：令和6年2月



工事中の川島大橋
(建設中の新橋脚)



4年ぶりの集い ピアノ演奏に 耳を傾ける



しばしの集いに 心も癒されて

12月3日、川島ライフデザインセンターで「古希・一人暮らし高齢者・介護者の集い」を開催、82人が参加しました。

今年度は4年ぶりの集いの開催。まず、来賓が「20歳の人は20kmの速さで、70歳の人は70kmの速さで日々が過ぎていく」と言われています。私の職場は70歳で超えた人が今でも元気で働いています。百寿まで元気に過ごしましょう。「また、「私も介護の経験があり、皆さんの大変さも分かります。」などと挨拶されました。

挨拶の後、アトラクションは、ドレス姿の櫻井優衣さんと柳原彩花さんのピアノ演奏。クラシックや小学唱歌など10曲を披露し、参加者は息の合ったピアノ連弾演奏に耳を傾けるとともに、中島みゆきの「糸」など歌の斉唱もしました。

最後に、くじの抽選を行い、楽しい集いのひと時を過ごしました。

さりげなく見守り活動

近隣ケアグループの紹介



「こんにちは、お元気ですか？」
一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯者等を対象に、声掛け、見守りで活動している近隣ケアグループ。普段の散歩時に対象者宅前を通ったり、あるいは対象者宅を訪問してお話をしたりします。比較的元気な方もいれば、介護を必要とする方もみえます。

今回、川島地区内で活動している6グループの代表の方に聞きました。



松倉東近隣ケアグループ

代表 平野笑子さん

①松倉近隣ケアグループを創られた方から声掛けがありました。②16年かけてもらって、嬉しいです。③見守り対象者の方から「いつも気にかけてもらって、嬉しいです。」というお手紙をいただいたことです。④今は特にありません。⑤可能であれば対象者宅で声掛けをしているところを写真などで広報紙に載せてはどうでしょうか？

松倉西近隣ケアグループ

代表 小島ひろみさん

①グループの人に誘われて活動するようになりました。②14年程度③近所の事はあまり知らなかったけれど、地域について少し関心をもつようになりました。④私たちが訪れることによつて動けない人に無理をさせているのではないかと心配な点もあります。⑤難しいです。なかなかいい方法が思いつきません。

松倉南近隣ケアグループ

代表 入佐菊代さん

①グループの人からお願ひされました。②5年③いつも気にかけてくれてありがたいと言われると嬉しいです。対象者で、いつも一人で暮らしている方があれば、時々子供たちが顔をみせに来てくれるという方があり、それぞれの環境によっていろいろ考えさせられます。④ないです。⑤分かりません。

質問内容

- ①活動のきっかけ
- ②活動年数
- ③印象に残っていること
- ④困っていること
- ⑤近隣ケア活動を住民に知ってもらう方法

河田近隣ケアグループ

代表 岩田喜久さん

①河田町東近隣ケアグループの方から誘われたことです。②1年。③今年の市社会福祉大会で「伊藤真波さん」の「あきらめない心」という講演を聞くことができたこと。感動的なお話でした。④近隣ケアグループの活動内容が地域住民に伝わってないこと。⑤近隣ケア活動を自治会役員にも知っていただいて、応援できる環境ができるようにと思います。

河田西近隣ケアグループ

代表 駒月久美さん

①シニアクラブの役員として活動している時に誘われました。②7年目に入ります。③特にないけれど、できれば自治会と一緒に活動できたら見守りもスムーズだと思います。④一人住まいの耳の不自由な方に、中へ入ってくださいと言われてもできない。⑤隣近所との繋がりが希薄になっている現在、一番よく知っているのは班長さんや自治会の方です。理解していただく関係にもつていきたいです。

松倉中近隣ケアグループ

代表 脇田美千広さん

①長く活動しておられる先輩の方からのお誘いです。②9年③ありがたいという言葉が聞こえる。逆に「あなたも体に気を付けてよ。」と言われることもあります。対象者はお話をしたいと思っている方が多いですね。④自分ができるようになったら、そのあと活動していただける人が見つかるか心配です。⑤多くの方が経験する機会があるといいです。

配食サービス

11月29日、一人暮らし高齢者宅に弁当を配付する事業を行いました。新型コロナウイルスのためここ三年は業者から取り寄せの弁当でしたが、今年度は「あゆみの会」皆さんの協力を得て手作り弁当のサービス。役員は前日から準備をし、当日は川島健康福祉センターで調理、盛り付けをし、地区ごとに分担し、弁当を対象者に届けました。

対象者は「毎年楽しみにしています。今年は大勢の方の心のこもっています。」



◆盛り付けの様子

もった弁当なんです。ありがとうございます。ありがとうございます」と受け取っていました。
(あゆみの会＝健康的で美味しい食事を学ぶグループ)

みたらし団子を販売

10月28日、川島ライフデザインセンターで、社会福祉協議会のPRを目的として、みたらし団子の販売を行いました。社協役員が焼く団子はこんがり焼けて、タレをつけてとてもおいしそう。

団子は市販より3割から4割も安いこともあり、お昼前のお腹が空く頃の間帯は団子を求める列ができ、千本用意した団子は午前中で完売しました。



◆団子は大人にも子供にも人気

可愛い歓声

8月24日、保育園児・学童を対象にモンメールの人形劇観賞会を実施しました。園児らの心はすっかり物語の中に入り、時には笑いや驚きの声を上げ、また、踊りに合わせて手拍子を打つ場面も見られました。更にドリームシアターがすぐくきれいだつたとの声も。幕間の休憩時間には隣の子と談笑し、ふれあいました。
(モンメール＝川島地区にある人形劇グループです。)



◆人形劇をみる園児・学童

緑町で支え合い支援

緑町では、日常のちょっとした困りごとのお手伝いをする支え合い活動を始めました。市民清掃の時、「一人暮らしの人が自分でできないので、困っている。」という話が出たのをきっかけに、協力してもいいという人が現れ、活動の話が進展していききました。

この活動は市社協からの助成もあります。他の地区で活動を希望

川島から二人が表彰される

される方は、本会(会長)又は市社協にご相談、ご連絡ください。

11月15日に市民会館で行われた「市社会福祉大会」で次の方が長年、川島地区社協役員を務められたことで表彰されました。

○地域福祉特別功労

小島ひろみさん

○地域福祉功労

大山貢さん



◆3グループに分かれて意見を出し合い
最後にグループ代表が発表しました

「コミュニティ会議 川島のよいところ 地域の困りごととは？」

9月30日、川島ライフデザインセンターで「コミュニティ会議」を開きました。自治会、民生委員、ボランティア等が参加し、「地域のよいところ」と「地域の困りごと」を上げ、「解決のために個人・地域が取り組むこと」の意見を出し合いました。

「地域のよいところ」では小網太鼓や子供相撲などの伝承、子供の増加、若い世代の川島移住、更にシニアクラブ有志の墓地清掃などが上がりました。

コミュニティ会議で出された主な意見

地域の良いところ

- 1 毎年子供の新入生がいる。
- 2 子供が増えている。
- 3 小網太鼓・子供相撲が伝承されている。
- 4 シニアクラブが定期的に開催されている。
- 5 シニア数人で墓、お宮清掃している。
- 6 三世代活動をしている。
- 7 周囲が川跡で、地元の区別がはっきりしている。
- 8 若い世代が川島へ移住してきている。
- 9 食料品販売での見守り活動。
- 10 行事を通しての近所等の繋がりがあがる。
- 11 自然がある。



地域の困りごと

- 1 シニアクラブ会員の減少。
- 2 高齢者の移動手段が問題。
- 3 高齢者世帯の増加。
- 4 ごみ出しルール違反、ごみ集積所の散乱。
- 5 近所づきあいの希薄化、結びつきが弱い。
- 6 子供集まらず、地域の将来が不安。
- 7 自治会役員の高齢化、高い会費。地域の役職を担う人がいない。役員でも事業の協力を得られない。
- 8 古い人と新しい人の交流などが少ない。
- 9 ボランティアや行事の参加者が少ない。
- 10 自治会へ加入しない。
- 11 犬の糞、雑草などマナーの問題。
- 12 スーパーがない。
- 13 自然がなくなりつつある。
- 14 狭い道路が更に手狭になっている。
- 15 地域全体の浸水

解決のための個人、地域での取り組み

- シニアクラブのPRや加入のメリットのPRをする。
- チョイ散歩であいさつをする。地域で個人情報の開示。
- 出しやすいごみ籠、ごみ保管BOXの設置。
- 集積所の清掃を順番にしたり、見かけた人が片付ける。
- ごみを出す時のルールを広報で伝え、行政と連携をとる。
- ごみ収集場所の清掃を輪番制にする。他のことでもPRは地道に回覧を回して周知。
- 地域で子供対象の遊び、老若男女の交流会の実施。公民館の開放。
- 犬の糞、雑草等マナーの問題は困っている人のことを(回覧)などで伝える。
- ネット上でみんなの顔が見える交流の場をつくる。。
- ボランティア普及については自分から始め、講習会を開き意識改革をする。
- 市バス等で利便性の良いシステムを導入している他市の情報入手。デマンドタクシーの取入れ。
- スーパーの誘致。移動販売のPR。。
- 公園を整備(造る)する。避難場所の確保。



「地域の困りごと」では、シニアクラブ員の減少、ごみ集積所の散乱、犬の糞や雑草の刈り取りマナーの問題、高齢者の移動手段、近所づきあいの希薄化、自治会加入問題などの意見がありました。「解決のための取り組み」では、左の表(下欄)のようにいろいろな意見が出されました。

挨拶やマナーなどは個人でできるものであり、地域で取り組むのは、ごみ箱設置や老若男女の交流会開催などで、近所との結びつきを深めていくこともできるのではないかといいことでした。また地域の担い手やボランティアが見つからず、前述の件など広報で周知に取り組むことが必要では

ないかということでした。移動手段では利便性の良い他市のシステム導入情報入手の提案がありました。会議の意見は次期の市福祉計画、福祉活動計画に反映されることになっています。みなさんも左記の主な意見表を参考に、困りごとの解決法等を考えてみませんか。